令和５年度（2023 年度）第２回南区まちづくり懇話会　会議録（要旨）

１　日時　令和５年（2023 年）７月１１日（金）午後２時～４時２５分

２　場所　南区役所　３階大会議室

３　出席者　計３３名　（出席者名簿のとおり）

・南区まちづくり懇話会委員　１６名

柴田委員（会長）、正木委員（副会長）

西村委員、澤田委員、宮本委員、立岡委員、北野委員、福田委員、中村委員

牛嶋委員、後藤委員、松永委員、井藤委員、高智穂委員、楠村委員、髙橋委員

・事務局（熊本市職員）　17 名

南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、土木センター所長

南区管内まちづくりセンター所長（５名）、福祉課長、保健子ども課長

保護課長、総務企画課職員（４名）

４　内容

（１）開会

（２）区長挨拶

（３）南区まちづくり懇話会・南区まちづくりビジョンについて

（４）意見交換

・令和４年度南区まちづくり推進事業実績報告について

・令和５年度南区まちづくり推進事業事業計画について

・次期総合計画について

（５）その他

・市長とドンドン語ろうの案内

（６）閉会

５　意見交換議事録

「南区まちづくり懇話会資料１・南区まちづくりビジョン冊子」について

＜資料１及び冊子について　事務局から説明後、柴田会長から補足説明＞

「令和４年度南区まちづくり推進事業実績報告資料 2-1

・令和５年度南区まちづくり推進事業事業計画資料 2-2」について

＜資料 2-1 及び 2-2 について　事務局から説明＞

（髙橋委員）
資料の確認をさせていただきたい。前年度までは、実績報告と事業計画にそれぞれ予算が振り分けられていた。昨年度は 1,800 万円ぐらいの予算の中で割り振りがあったと思うが、今回の資料に具体的な予算額が載ってないのはなぜか。

（事務局）
南区まちづくり推進経費としては、年間 1,900 万円の事業費の中で行っている。令和４年度の資料から予算の記載はしていないが、記載した方がよろしいか。

（髙橋委員）
特に重点的にやっていきたい事業のポイントや方向性、継続事業の拡充等で予算の増減があると思うので、事業の審議となると予算の変化が少し気になったので、各事業の予算の内訳を知っておきたい。

（柴田会長）
新規か継続か、または元々あった事業の拡充などの表記も追加していただきたい。

（事務局）
了承。

（牛嶋委員）
南区こどもの交通安全対策事業の道路標示があるが、非常に良いと思う。この南区のキャラクターの道路標示は予算化していつも作られるのか。
また、川尻校区の川尻小学校のマスコットに「ラックルくん」というキャラクターがいるが、地域のこどもたちに親しまれているキャラクターを通学路の道路標示にすることで、こどもたちも興味を持って交通ルールを守ってくれると思うので、こんなアイデアは実現できるかどうか。

（事務局）
南区こどもの交通安全対策事業は、こどもの安全対策と南区のキャラクターを押していくことで昨年度実施した。今年度も予算に限りはあるが、昨年度同様、スクールゾーン等の危険箇所に南区キャラクターの道路標示の設置を進めていきたい。
また、川尻地区のキャラクターについて、その知名度を上げていきたいというお気持ちはわかりますので、御相談させてもらいながら進めていきたい。

（柴田会長）
このキャラクターの道路標示について、今年度は何箇所整備しようとか、そういう計画はあるのか。

（事務局）

昨年度は、８箇所設置している。総務企画課から材料費を再配当し、土木センターの予算で施工するため、今年度の計画はこれから考えていきたい。

（牛嶋委員）
熊本農業高校近くの新興住宅はこどもたちが非常に多い。そこの自治会長から、道路の交差点が分かりにくいため交差点のマークをつけてほしいという相談を受けている。警察で対応できる部分についてはお願いをしているが、交差点の道路標示をキャラクターにすることが可能であれば御相談させていただきたい。

（事務局）
横断歩道を白と水色でわかりやすく、歩道の部分を緑色で標示（グリーンゾーン）することを想定するが、元三地区の集落増加については承知しており、地域の方々は、国道３号を渡って小学校に通っているため危険箇所も多い。
道路管理者（市・県）と、交通管理者（警察）の役割分担があって、停止線は警察が決定している。横断歩道や交差点等のカラー標示は道路管理者の裁量でできることから、危険箇所には市で調査して設置したり、随時、地域の方々からの要望を受けて設置することも検討していきたい。

（柴田会長）
キャラクターによる道路標示はとても良いことだと思うが、設置しただけで放置していたら何の効果もない。折角整備したのであれば、各小学校に周知して交通安全指導の際に活用することで、整備が効果的になると思うので、ぜひ検討いただきたい。

（高智穂委員）
地域コミュニティづくり支援事業ということで、私がこの支援事業の審査員をほかの区でやっていて、交通安全について地域の子どもたちに標語を作ってもらって、それを通学路に掲示するという事業があった。
どこの区でもそうだが、本補助金は単なる物品の購入のみで終わっていることが多くあるのが現状で、うまく活用出来ていない印象がある。例えば、ラックルくんは川尻校区の青パトの出発式に登場するくらい地域に浸透していると思うので、ラックルくんを使ってこどもたちと一緒に何か作ることで、地域コミュニティの醸成ができると思っている。ぜひ川尻校区でモデルになっていただきたい。

（柴田会長）
南区の地域コミュニティづくり支援事業の現状を報告・説明いただきたい。

（事務局）
今年度については、すでに審査会は終了している。
今年度は 17 団体の応募があり、16 団体の採択がなされている。補助金額としては、281 万 1,000 円の補助金の予定。

主な内容としては、城南豊田校区の阿高地区の交流会、城南町の夏祭り、幸田ランドなど、コロナもある程度落ちつき、イベント関係が今回多かったという印象。

（柴田会長）
私もコミュニティづくり支援補助金の審査員であり、たしかに南区でも防災倉庫を購入し整備するという事例がある。一概に物品だから駄目といえないため、それを使った防災訓練をしてほしいという期待を込めて採択している部分もある。

（正木副会長）
地域資源活用事業について先ほど、６月の野菜収穫体験の説明があったが、10 月～12 月の歴史文化のイベントは１回のみか、それとも幾つかに分けるのか。

（事務局）
10～12 月のイベントは１回のみで、親子体験型というところで調整している。

（正木副会長）
これ以外で何か計画されているのか。

（事務局）
現時点では、今年度２回目のイベントでは史跡めぐりやお寺を使った内容を考えている。今年度は、２本立ての予定。

（正木副会長）
野菜収穫体験が６月（梅雨前）に実施されているが、秋か冬前の施設園芸の方が充実している。時期を分けると収穫できるものが変わってくるので、そういうのを考えられてもいいのかなと提案。

（事務局）
本当は苗つけから、成長の収穫まで一通り体験してもらったほうがいいと思ったが、なかなかご協力いただけるところが見つからなかったため、来年度計画する。

（正木副会長）
昨年天明地区で実施した津波高潮警戒地域防災計画支援事業について、本年度は飽田で展開する予定となっているが、天明と同じような内容になるのか。

（事務局）
天明と全く同じというわけではない。飽田地区では飽田西小学校は海に近いが、飽田東小学校になると内陸になるので、地域性を加味しながら、高潮津波・内水氾濫・台風・地震あたりも含めたところで、防災計画を作成する予定。

（髙橋委員）
令和４年度に天明地区で作成された防災計画を全世帯に配布してあるが、地区防災計画を作っただけでは意味がないため、今後その防災計画を活用して避難訓練等の計画をしているのか。

（事務局）
昨年度、天明地区の防災計画は全世帯配布している。こちらが１枚物で天明地区の危険な場所を示したマップであったり、メインが各家庭において、災害時に自分がとるべき行動、いわゆるマイタイムラインと言われるものになっている。各家庭で、いざというときに使ってもらうというのが、この計画の趣旨。

（髙橋委員）
紙も大事だと思うが、若い人たちはネットとか使う人が多いので、データが熊本市のホームページに上がっていると、それをスクリーンショットとかしておけば、仮に、資料がどこに行ったかわからなくなったとしても、確認できると思うので、そういった別の媒体を使って発信してもよいと思う。
また、飽田地区の防災士を集めた組織が先日立ち上がり、私も参加したが、そこで感じたのが、自主防災組織とか避難所運営委員会とかいろんな防災に関わるグループがあり、様々な組織があり過ぎて、横の連携がうまく出来てないように感じた。南区が音頭をとって南区区民防災会議開催事業の中で１回２回ではなくて、複数回に分けて、そういう防災人材の発掘を併せて検討いただきたい。

（事務局）
地域には防災士会、自主防災クラブ、民生委員、ＰＴＡなど防災に対するいろんな知識を持っていて、地域のために貢献をしたいという方もいっぱいいるため、このような方々の横のつながりがないので、一つに集めて、避難所運営委員会は避難所の運営をしていただくが、避難所までの高齢者対応を自主防災クラブにお願いするなど役割分担を決めながら、一つの地区で一つの防災の組織をまずは飽田でつくり上げていきたい。

（中村委員）
避難所運営委員会とか消防団などバラバラになっていて、私自身、防災士だが地元から声がかからない。南区からの連絡は自治会長だけに来る。どこにどうつないでいったらいいのかわからないという声もあったので、いろんな地区の中で横のつながりが持てるようにやらないと、防災については、それぞれの組織があるだけでは上手くいかない。
それから、防災計画が配られたが、なかなか活用されてないのではないかなという声も聞くので、今後の活用について啓蒙していかなければならないと思っている。

（柴田会長）

その横のつながり、連携がとにかくうまくいっていない。いろんな分野でうまくいっていないが、防災士という観点から、どこから攻めていけばいいか、何かこういうところから進めたらどうか考えがあればぜひ伺いたい。

（中村委員）
今、地区の中で自治会長が一番困ってらっしゃるので、防災士である私のほうから動いていこうと思っている。自治会長にも、何か困ったことがあったら、悩みを共有していきませんかと声をかけているので、区の担当も入っていただいたり、まちづくりセンターに相談に行ったりして、横のつながりを持てればいいと思っている。

（宮本委員）
福祉の分野においては、横展開というのが、つながりがあるところはすごく強固なものがあると感じているが、城南ワンダホーのような地域団体とは連携がつながってない状況。高齢者に関わることにおいては防災や避難においても、誰に何を頼めばいいのか困るという状況はある。それを改善するために、どこと、どんなふうにつながればいいのか解決策が見出せない状況。

（立岡委員）
連携という意味では、ささえりあとは同じフロアで、業務を一体的にやらせていただいているので、連携を取っていると思うが、南区の飽田、天明、富合と城南の４校区分のささえりあだったり、まちづくりセンター、公民館、ボランティアとは同じような連携はとれていない。障がい者になると、子どもから大人の方までなので、文科省、厚労省などいろいろあって、縦割りになっている部分も感じている。
防災については、障がいをお持ちの方が避難できる場所や方法を天明で作られたマイタイムラインも見させていただいて、わかりやすいものになっているのか、こういうふうに改善するとわかりやすいなという視点で見させていただけたらと思っている。

（澤田委員）
私たちには子どもとお年寄りの情報は入るが、地域の障がい者の情報は入らない。お年寄りのひとり暮らしの方を誰が安全な場所まで連れていくのかが１番気になる。私の校区では、城南小学校とか南部公民館だが、近いところならいいが、国道３号を渡ったり、川が近くにあった場合、なかなかお連れ出来ない。先日、南高江の老健施設に見学に行ったところ、避難の際は協力していただけるとのことだった。そのことを地域に共有出来たらと思う。民生委員は高齢化していて思うように動けなかったりするので、地域の老健施設や福祉施設もすごく強力な味方だと感じている。

（柴田会長）
老健施設に避難ができるというのも、みんなで共有していたほうがいい。一方でどこに相談したらいいか、実際、困るとおっしゃっていたが、区でこうしたらいいみたいなものってないか。これはまちセンに飛び込んだらいいか。

（本田区長）
相談先を福祉課ではなくて、ささえりあにだいぶ頼っているところが実際ある。
迷われたら、区役所に連絡をしていただいて、ケースに応じて各部署につながせていただくことになると思う。
現市長も非常にそういったところは感じているが、人も必要になってくるので、その辺はまだまだ改善の余地がある。

（北野委員）
子育て支援ネットワークで防災研修会を開催した。このときは、まちづくりセンターにもお伝いいただいて、世話人会というのを作りやっていて、そこで横の連携をとりながら、マイタイムラインの研修会をＰＴＡの授業参観に合わせて、120 名ぐらい参加していただいた。また、６つの自治会で、防災士とも合わせながら、各家庭のマイタイムラインを小学生、幼稚園児がいる保護者の家庭は自分たちのマイタイムライン、高齢者のところは高齢者のマイタイムラインを作って、自治会でそれを共有する体制を作っていきたい。10 月 25 日に、民児協主催で、南区の子育て支援サークルに入っている親子 100 組の交流会を計画している。保護者も小さい子ども抱えてどうやって逃げようかと常に考えているので、防災グッズを配るとか、防災のミニセミナーを開催するともっとよくなっていくと思った。

（柴田会長）
子どもがいる世帯、子育て世代の防災と、テーマを決めていくとターゲットがクリアになって展開しやすい、さらにつくりやすい、すごくわかりやすい具体的な取り組みだと思った。福田委員、ＰＴＡということで、コメント、感想いかがか。

（福田委員）
先週、大雨が降ったとき、保護者から休校にするのか、登校させていいのかという問い合わせの判断にすごく迷っていると校長から相談があった。休校にしてしまうと、家で子どもだけになり本当に危ない状態になった場合が怖いということで、休校にしないことになった。保護者の判断で学校を休まれた児童もいた。安全に対しては、保護者の判断が重要になってくると思う。
実際、御幸校区でもいろんな訓練をするが、防災に関して保護者が参加するということはほとんどないので、自治会、その諸団体で、今年度、保護者と子どもが一緒に参加できるような形で、こどもの学びの場になるような会議を提案していきたい。

（後藤委員）
熊本地震が起きたときに、自治会長をしていて、地区を回ったが、１番冷静にならなんのは自分だったと後からわかった。本震のとき、公民館ではお年寄りが軽トラックに、体を小さくして避難しておられる。ひとり暮らしのおばあちゃんがおられて、その近くの奥さんが大丈夫ですかということで、心配して見に行かれる。周りの方の見

守りが必要だということがわかった。自主防災クラブとかはあるが、実際どうしていいかわからなくて、はっきりいって、何も役に立たなかった。

（松永委員）
隈庄校区の第 77 分団長をしており消防の観点から意見する。
地震があったときは、消防団員には、まず自分の命を守る、そのあと家族を守る。そして、安全が確認できたら、集まってと伝えている。
大雨の話があったが、消防団は白川でボート訓練をしていて、消防団が水防団になるので、川が決壊して床上浸水したときなど、消防団を頼っていいと思う。
避難所訓練されるときも消防団が来ていると思うが、簡易トイレのつくり方とかもっと消防団を頼ってもらっていいと思う。

（井藤委員）
私も防災士で、自主防災組織にも入っている。居住地の集落の中に３人防災士がいるので、一緒に話し合いながら、地域防災計画を立てたり、比較したりとかができるが、私の隣の集落だと、防災士が１人しかいなくて、町から計画立ててくださいと言われるけれども１人だと、どうしていいかわからなくて、やっぱり横の連携が必要だなと思っていて、防災士によっても、モチベーションの差もあるだろうし、能力の差もあると思うので、地域間で、上手な地域が隣の地域を応援してあげるといった仕組みづくりは必要だと思った。

（楠村委員）
転入してきたときに南区のキャラクターを知った。転入してきた人に南区のホームページ、キャラクターがあるというのを周知していただけると、さらに、愛着を持てるのではないかと思った。
また、個人的な趣味で登山をしていて、雁回山に登った。登山ルートが、崩壊していて、城南コースはなかなか復旧していなかった。
ある山では、そこに石ころを敷きたいというニーズがあるときは、登山者に石ころを１人１個は持っていってといった呼びかけとか、小屋が上にあって、水がないので、登山口のところに、水を入れたペットボトルが用意してあって、１人どれかもって、牧歌していってくださいとかいうのがあった。そういう呼びかけをすることで、人を呼び込むことにもなると思うし、みんなを巻き込んでやると愛着もわくと思った。
フットパスマップをいただいて、それを見て歩いてみたが、そのルートどおりに歩けず、挫折して帰ってきた。せっかくフットパスのスタート地点の標識があるので、途中にも標識を設置するといいと思った。

（柴田会長）
私は東区民だが、確かに市のホームページは見るが、東区のホームページは見ない、ほんとそうだと思った。雁回山は南区のシンボル。登山道は、土木センター管轄か。

（事務局）
現在、森の都推進部にて雁回山の登山道の城南コースの復旧に向けて動いている。

（西村委員）
以前、中学校のＰＴＡ会長をしていて、地区の子供たちが自分でつくる安全マップを作った。横断が難しい箇所や危険箇所を地図に描いて、でき上がった地図を自治会長に持っていき改善してくださいとお願いしたことがある。当初はうまくいかなかったが、翌年度は、学校の中の川の整備を市にお願いした。川の清掃はＰＴＡの仕事で毎年、少しの泥しかあげられなかったが、自治会長に連絡して、市でやったら、２日で終わる。みんなが来てくれれば解決できる。
事業提案は、防災に関してだが、白地図に安全マップがそれぞれレイヤとして、いろんな問題点が重なっていく地図を作成する。イベントみたいにして、問題を楽しく集める。それを解決するために、いろいろ知恵を絞る。翌年度、それを見せてここが解決出来ましたというルーティンを作ると継続した事業になっていく。何かそういう事業を縦割りではなくて、寄ってたかってそれを解決しようという場所を作ってほしい。

（柴田会長）
いいところマップはよく作る。南区も、たからものマップを作ったばかりだが、今のは課題マップ。それを逆に行政に任せるのではなくて、市役所でしか出来ないこともあるけど、できることはみんなでやっていこうという役割分担をしていく、きっかけとして、そういうマップづくりからやっていこうという提案だったと思う。

（髙橋委員）
幸田まちづくりサロンという、まさに課題解決型プロジェクトを昨年度から幸田まちセンを中心に活動されており、幸田地区の人たちを中心にやってらっしゃるので、ぜひ、皆さんの活動のヒントになると思うので活動内容を説明願いたい。

（事務局）
新たなまちづくり人材育成事業としてまちづくり活動に興味のある住民の方が、気軽に集まって、参加者同士が交流して学びながら、つながりをつくっていろんなことをやっていこうということで、昨年度から始めている。今日、委員で参加されている福田委員、高橋委員、前回は柴田会長にも県立大の学生を連れてきていただいた。高齢の方から若い方まで、いろんな話合いとか、学び合いをしながら、今年度は、実際に動き出していこうというところで、幸田ランドというイベントを子どもたちを中心にやりながら、大人たちも交流をし、つながりを作っていこうという事業をすることになっている。
また、サロンの中で出たアイデアで、パラスポーツのボッチャというイベントもやることになっている。これは障がい者の学びをしながら、子どもたちだけでなく、大人たちもつながりながらやっていく。

あと、スポーツごみ拾いというイベントなどいろんな計画が立ってきているところなので、懇話会委員にも、参加していただきながら、学びながらつながりながら、課題解決をしていく取り組みをやっている。

（柴田会長）
西村委員から提案いただいたことは、まちセンぐらいの単位でやっていくのも一つの手かなと思う。そのときに、今年度もあるが、まちづくり人材育成事業のワークショップの枠組みを使ってやるというのも一つやり方としてはあるかなと思った。

「次期総合計画資料３」について
＜資料３について　事務局から説明＞

（柴田会長）
スケジュールで11月に素案ということだが、今回以外に、この場でこの総合計画に意見を述べたりできる機会は11月までに何回あるのか。

（事務局）
もう1回ぐらいは懇話会を開催したいと思っているので、そのときにまた、ご意見をいただければと思っている。

（柴田会長）
10月に３回目を予定されており、意見をいただける機会があるということだが、今日は最初の課題認識と方向性という感覚で資料をいただいたが、御意見はいかがか。

（正木副会長）
予算の中で、昔はコミュニケーションをできるようなものにも配分されていた。コロナで計画して出来なかった事業も多かったと思う。最近、昔行っていた事業を復活しようとしても復活するのが難しいという話をされる。どうやったらいいのかとみなさん悩んでいる。新しい事業もしながら、できれば昔行っていたものも復活させていってほしい。

（事務局）
今年度、復活イベントということで、天明では商工会が平成３０年度から実施した、天明地域市民の集いをコミュニティづくり支援制度を利用して、久しぶりに実施したいと思っている。

（正木副会長）
近所とか、近くの地元の人の交流の場がなかなかないので、どこに誰が住んでいるとか、新しく来られた方、新築された方の交流の場がないので、そういう場を増やして

いかないといけないのではないかなと思う。昔あったちょっとした催し物やコミュニケーションの場が必要だと思う。

（本田区長）
今年になって、イベントに多数ご案内をいただいていて、早速今月から御幸地区の校区のお祭りや、天明、富合も予定がありますし、川尻精霊流しも開催される。コロナ前というまでには至らないのかもしれませんけども、つながりは非常に出てきており、今後はさらに活発化していくのではないかと思っている。

（髙橋委員）
３ページ目の南区の現状と課題とまちづくりの方向性ということで、ここに記載のとおり、総合計画に反映するということで、認識していてよいか。

（事務局）
実際その総合計画の体系自体も決まっていないので、南区として、今こういった課題があるというのを記載させていただいているという現状。

（柴田会長）
子育て、健康、地域資源、安全・安心と書かれている。これはとてもわかりやすいが、実はつながっている。それがもう少し、うまく表現できるような中身になるといいと思った。ぜひ、ご検討いただきたいと思う。

（中村委員）
次期の総合計画策定の４つの方向性の中に、同じキーワードとして心を入れられたが、その南区が大事にしているものとは、心ということで、表現されている部分を説明いただきたい。

（事務局）
まちづくりの方向性（案）として、各分野のテーマをつくる中で、心というのが一つのキーワードとして、頭に浮び作成している。これがそのまま、総合計画の中に入っていくものではなく、今後協議しながらつくり上げていく中で、どんどん変化していくものと思う。

（中村委員）
何かの思いがあったのだろうと思うので、折角キーワードとして４つの心が入っているので、南区で育てたい心を付けたり、大事にしたい心躍るまちって何なんだというところでは、この４つのキーワードを入れたポイントがはっきりすれば、残すべきなのかということは、はっきりしてくると思うので、その思いつきの良さの根本のところも検討していただければと思う。

（本田区長）
第８次総合計画は、今後「市長とドンドン語ろう」を実施し、体系そのものをこれから作っていくということになっており、これまでの区のまちづくりビジョンが第７次には結構なボリュームであったが、それを見直そうとなっている。ある程度のたたきがないと議論も出来ないだろうというところで作っているので、自由に提案をいただいて、今後、骨子から素案、計画ということになっていく予定。

（柴田会長）
中村委員がおっしゃったようにとてもいいと思った。南区はこれでいくと言うべきじゃないかなと思う。南区としては心、これはこういう理由で、この意味するところは、皆さんの誇りができると、これはと強く主張できるように、こちらも理論武装しておく必要があるのではないかという御意見かなと私は理解した。心というのはいい言葉で、ふるさとなり愛着なり誇りなり、そういったものに通じるのかなと私は思った。そういった御意見を、再度、皆さんからいただければいいのかなと思う。

（井藤委員）
まちづくりビジョンの南区の概要を見てみると、土地利用として農地が多かったり、雁回山など自然が当たり前という景色が集まったり、子育て世代が、急激に増えているという状況かなと思うが、今後も、子育て世代が増えてくるという見込みがあるのか。

（事務局）
南区役所周辺で、土地区画整理事業が進んでいるので、その地区で人口も増えていく見込みである。

（井藤委員）
今後増えていくということだが、南区の良さには農地や自然の風景があると思うので、土地開発が進んでいくと、そういった景観が損なわれたり、南区がたからものと呼んでいる部分をどう守っていくのか、でも守ってばっかりだと開発も出来ないという部分があると思うので、そのあたりをどのようにお考えか。

（本田区長）
私も南区に来て、宅地開発が進んでいて驚いた。南区のいいところは農地があって、調和のとれた住みやすいまちというところが１番いいところなので、そこは堅持していかなければならないと思っている。その一方で、交通渋滞の問題も大きな課題なので、市だけでなく、国・県にもお願いして解決していかなければならない。

（井藤委員）
子育て世帯が増えているという状況はすごくいいことだと思うが、その子供たちが成長していって、果たして残ってくれるのかどうかというところも、これから取り組ん

でいかなければならない課題だと思う。子どもたちが増えている現状があるので、その子どもたちにいかに市を愛してもらって、残ってもらうのかを皆様で考えていけばいいのかなと思った。

（髙橋委員）
まちづくりの方向性ということだが、４項目ありますけど、まちづくりビジョンということと照らして考えると、農漁業が入ってないのが何か意図があるのかと思った。もし追加できるなら、南区の特色の一つだと思うし、入れたほうがいいと思う。

（事務局）
構成は決まっていないので、そういった意見もあるということで、また考えさせていただきたいと思う。

（西村委員）
天明地区は、小学校が統廃合で、４校が１つの天明小学校という形になっていく。これを機に、いろんなみなさんが、一つの小学校に関わっている中で、新しいことができる。興味がある方が説明会に参加していただき、商工会青年部、子どもたち、保護者の方といっしょに自分たちが住みやすい楽しいまちづくりができる可能性がある。その背景には、統廃合が終わった小学校の跡地利用についても意見を聞いていると、山形では大人のための学校やろうということで黒字化されているところもある。商工会のみなさんは、地域の中でいろんな形でやっている事業者はいっぱいある。例えば、天明環境保全隊、プレハブの中でやっているが、それが小学校の中でやれたら、もっといいものができると思うので、いろんな可能性が含まれている以上は、地域の団体の方にも聞く場所というのを作っていただいて、ワークショップという形だと発表しやすいと思うので、まだ３年半あるから、ぜひ、お願いしたいと思っている。

（柴田会長）
統廃合で、普通、後ろ向きな議論になりがちなところが、非常に前向きな意見で、確かにまちづくりの可能性がある。ぜひそういった観点で捉えていただいて、提案いただいたワークショップ含め、関係者だけではなくて、広く皆さんの意見を伺う場を設けるのは確かにとてもいいことだと思った。ぜひ、提案を活かしていただきたい。

（事務局）
教育委員会で、新校準備会というのを開いていて、６月 16 日の会議では幼稚園の保護者の代表の方々を入れた意見交換会もあった。その方々や、今の小学校中学校のＰＴＡの方々を呼んで、意見交換会が行われた。
今後、地域部会とか、学校運営部会とか、そういう形を立ち上げて、皆様の意見を反映させながら、新しい学校をつくっていきたいと思っている。

（髙橋委員）
南区で校区カルテを作られたと思うが、その中でいろんな数字が出てきていると思う。その数字を６まちセンごとに、少しずつでも、総合計画の南区の現状のところに入れられるとその先の地域課題というところも非常に明確になってくる。折角校区カルテというデータがあるので、ぜひ活用したほうがいい。

（柴田会長）
今の指摘とても重要。南区は決まってないからこそ、南区でつくればいい、逆提案していいのではないかと思う。カルテがあるので、もっとリアルな数字なり、現状の課題や方向性というものをつくり込んでいくことを提案する。